

記入例

※ 農地法の改正により農業生産法人は、農地所有適格法人と平成28年4月から変更になりました。

農地所有適格法人報告書

決算期間

自 平成27年 4月 1日
至 平成28年 3月 31日

農地所有適格法人報告書は、決算後3か月以内に提出して下さい。

平成28年 6月 30日

報告年月日

志布志市農業委員会会長 様

主たる事務所の所在地 ○○市○○町○○ ○○番地
名称及び代表者氏名 ○○株式会社
代表取締役 ○○○○ 印

下記のとおり農地法第6条第1項の規定に基づき報告します。

法人登記簿に記載されている正式名称、法人設立形態、役職、氏名、所在地を記載して下さい。

記

1 法人の概要

法人の名称及び代表者の氏名	○○株式会社 代表取締役 ○○○○	
主たる事務所の所在地	○○市○○町○○ ○○番地	
経営面積 (ha)	田	1. 2
	畑	4. 8
	採草放牧地	—
法人形態	株式会社	

2 農地法第2条第3項第1号関係

(1) 事業の種類

農 業		左記農業に該当しない事業の内容
生産する農畜産物	関連事業等の内容	
米・キャベツ・茶	肥料の販売	駐車場経営

(2) 売上高 (千円)

年度	農 業	左記農業に該当しない事業
3年前 (実績)	15,000	1,000
2年前 (実績)	14,000	1,000
1年前 (実績)	16,500	1,000
報告日の属する年(見込み)	15,000	1,000
2年目 (見込み)	15,000	1,000
3年目 (見込み)	15,000	1,000

3 農地法第2条第3項第2号関係

構成員全ての状況（組合員名簿又は株主名簿の写しを添付してください。また、農業法人に対する投資の円滑化に関する特別措置法に基づく承認会社が構成員である場合には、当該承認会社であることを証する書面及びその構成員の株主名簿の写し（その有する議決権を記載したもの）を添付してください。）

- (1) 農業関係者（権利提供者、常時従事者、農作業委託者、農地保有合理化法人、地方公共団体、農業協同組合、投資円滑化法に基づく承認会社等）

氏名又は名称	議決権の数	構成員が個人の場合は以下のいずれかの状況				農作業委託の内容
		農地等の提供面積(m ²)		農業への従事状況(年 月)		
		権利の種類	面積	直近実績	見込み	
○ ○ ○ ○	20口	所有権	10,000	10	10	
□ □ □ □	10口	所有権	12,000	9	10	
△ △ △ △	10口	賃借権	7,000	9	10	
☆ ☆ ☆ ☆	10口	賃借権	9,000	10	8	

(記載要領)

「農業への従事状況」には、その法人が農業(労務管理や市場開拓等も含みます。)を行う期間のうちその者が当該事業に参画・関与している期間を記載してください。

議決権の数の合計	50口
農業関係者の議決権の割合	100%

その法人が農業（労務管理や市場開拓等も含みます。）を行う期間：年

- (2) 関連事業者（法人から物資の供給又は役務の提供を受けている者等）

氏名又は名称	議決権の数	取引関係等の内容(法人との連携について農商工連携法等の法律に基づく認定を受けた場合は、法律の名称、当該認定を受けた年月日、認定計画の期間満了日及び取引関係等の内容)

議決権の数の合計	
関連事業者の議決権の割合	

(留意事項)

1. 関連事業者がいる場合には、その法人とその構成員との間で締結された契約書の写し等その構成員が関連事業者であることを証する書面を添付してください。
2. 「農商工連携法等の法律に基づく認定」は、食品流通構造改善促進法（平成3年法律第59号）、中小企業者と農林漁業者との連携による事業活動の促進に関する法律（平成20年法律第38号）、農林漁業有機物資源のバイオ燃料の原材料としての利用の促進に関する法律（平成20年法律第45号）、米穀の新用途への利用の促進に関する法律（平成21年法律第25号）の

いずれかに基づく認定です。

3. 「農商工連携法等の法律に基づく認定を受けた場合」には、いずれかの認定を受けたことを証する書面の写しを添付してください。

4 農地法第2条第3項第3号関係

理事、取締役又は業務を執行する役員全ての状況

- (1) 農業（労務管理や市場開拓等も含む。）への従事状況

氏名	住所	役職	農業への従事状況(年 か月)		農業への常時従事の有無	
			直近実績	見込み	直近実績	見込み
			〇〇 〇〇	〇〇市〇〇町〇〇 番地	代表取締役	10
□□ □□	〇〇市〇〇町〇〇 番地	取締役	9	10	9	10


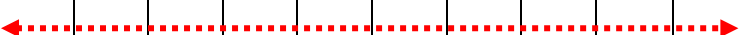





(記載要領)

「農業への従事状況」には、その法人が農業（労務管理や市場開拓等も含みます。）を行う期間のうちその者が当該事業に参画・関与している期間を記載してください。

その法人が農業（労務管理や市場開拓等も含みます。）を行う期間：年 　　か月

- (2) 「農業への常時従事」が有ると記載された理事、取締役又は業務を執行する役員の農業への従事状況

(該当する期間を役員等ごとに、直近実績は「」、見込みは「」で示してください。)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
その行う耕作又は養畜の事業に必要な農作業の期間												
												
その者が農業に常時従事する期間 (〇〇 〇〇)												
												
(□□ □□)												
()												

(「農業に常時従事する期間」とは、その期間、必要な農作業(耕うん、播種、施肥、刈取り等)にいつでも従事できる状態にあることです。)

(記載要領)

1. 「2 (1) 事業の種類」の「生産する農畜産物」欄には、法人の生産する農畜産物のうち、粗収益の50%を超えると認められるものの名称を記載してください。なお、いずれの農畜産物の粗収益も50%を超えない場合には、粗収益の多いものから順に3つの農畜産物の名称を記載してください。
2. 「2 (1) 事業の種類」の「関連事業等」とは、
 - (1) 耕作又は養畜の事業に関連する次に掲げる事業
 - ア 農畜産物を原料又は材料として使用する製造又は加工
 - イ 農畜産物の貯蔵、運搬又は販売
 - ウ 農業生産に必要な資材の製造
 - エ 農作業の受託
 - オ 農村滞在型余暇活動に利用される施設の設置及び運営並びに農村滞在型余暇活動を行う者を宿泊させること等農村滞在型余暇活動に必要な役務の提供
 - (2) 農業と併せ行う林業
 - (3) 農事組合法人が行う共同利用施設の設置又は農作業の共同化に関する事業です。
3. 「2 (2) 売上高」の「農業」欄には、法人の行う耕作又は養畜の事業及び関連事業等の売上高の合計を記載し、それ以外の事業の売上高については、「左記農業に該当しないの事業」欄に記載してください。
4. 「3 (1) 農業関係者」は、農業法人に対する投資の円滑化に関する特別措置法（平成14年法律第52号）第5条に規定する承認会社が法人の構成員に含まれる場合には、その承認会社の株主の氏名又は名称及び株主ごとの議決権の数を記載してください。
複数の承認会社が構成員となっている法人にあっては、承認会社ごとに区分して株主の状況を記載してください。
5. 「3 (2) 関連事業者」の「取引関係等の内容」欄には、例えば、「法人から生産物を購入している食品会社」、「法人に肥料を販売する肥料会社」、「法人と特許権の専用実施権の設定を行っている種苗会社」等と記載してください。
6. 法人の代表者の氏名の記載を自署する場合においては、押印を省略することができます。